

富加町 大平賀地区 他4地区

令和3年度

【地域の概要】	〈耕作面積〉	〈人・農地プラン〉	〈中心経営体〉
○大平賀地区	57.3ha	平成26年作成	個人2名（水稲、なす等）
○夕田地区	37.4ha	未作成	個人1名（水稲） 法人1団体（水稲）
○川小牧地区	29.4ha	未作成	不在
○高畑地区	35.1ha	平成29年作成	個人2名（酪農、イチゴ）
○加治田東部地区	27.6ha	未作成	法人1団体（水稲）

①取組開始前の状況や課題

町内の人・農地プラン作成状況

○対象の8地区のうち、令和2年度までに3地区は実質化した。5地区は話し合いができず将来方針が定まっていない。

地区共通の課題

- 土地所有者による耕作が維持されている地区が多いものの、高齢化や相続等により管理者が離農するなど、作付が難しい山沿いの農地の荒廃化が懸念。
- 米価下落が進む中、機械のメンテナンス等経費増大が経営を圧迫している。
- 集落営農法人は近隣の集積を進めたいが、オペレーター等人員不足によりすぐに集積できない状況にある。

地区ごとの課題

- （川小牧）
- ため池、河川からの十分な引水が難しく、耕作が困難である農地がある。
 - 山が近いので、いのしし等鳥獣害の被害が多い。
- （高畑）
- 地域酪農家に牧草地として貸している農家が多く、依存度が高いことから、中長期的な将来には、農地管理に不安がある。

②取組内容

検討会（話し合い）実施（令和4年1月）

○5地区ごとに、アンケート結果・農地利用意向を落とし込んだ地図をもとに話し合いを実施

〈参加者〉農業委員会長、地区の農業委員・推進委員、中心経営体、土地改良区、JA、県、農業会議、農畜産公社、町

内容

- 地区の課題や方針について、地区委員や中心経営体から意見出し
- 中心経営体の今後の引受意向や地域に協力して欲しいことなど条件を共有した
- 関係機関からは、出された意見や課題への対応策、他市町村の優良事例を紹介した



③今後の展開と方向性

農地集積・集約化の方針

○5年程度は現状の営農体系を続けていき、その間に集落営農法人への農地集積の協議を進める。

○農地集積には、法人の体制強化が不可欠。農地所有者は農地貸付だけでなく、オペレーター等として営農活動に参加するなどの地域の協力を検討していく。

（川小牧）

○担い手が不在であるが、地区で農地保全していくことを目指し、地域の若い農業者を中心に集落営農組織化の可能性を検討する。

（大平賀）

○今後3年をめどに町内外からの入り作も視野に入れた組織化により、地区全体の集約化を目指す。

（高畑）

○酪農の担い手は規模拡大を希望しており、計画的な集積・集約を進めていく。

全てのプラン実質化完了（令和4年3月）

○地区の農業委員・推進委員が関与し、プラン実行を進めていく。